

## 発信！ 特別支援教育①

# 知的障がい特別支援学級の授業づくり —子供に合った指導内容の設定—

前号の「発信！特別支援教育」で、知的障がいのある子供の授業づくりの考え方をお伝えしました。知的障がいの学習上の特性を踏まえ、子供の学びやすさを考えて授業づくりを進めることが大切です。

“特別支援学級の授業づくりは子供からスタート”

教師が子供に応じて具体的な指導内容（子供に学んでほしいこと）を考えることとなります。何を指導内容とするかが、授業の成否に大きく関係してきます。今回は、子供の実態に合った丁度いい指導内容になっているかを確認する観点を提案したいと思います。

学ぶ主役である子供の気持ちになって、3つの観点をチェックしてみましょう！

考えた「指導内容」は、**Aくん**にとって…

### 観点① 【興味関心】のあることですか？

好きなこと得意なことを生かす

取り組みやすさを重視した場合、子供にとって好きなこと得意なことを生かすことが有効と言えます。自分の興味関心のあることに誘われれば、子供は主体的に取り組んでくれます。子供にとって好きなこと得意なことは、自分の力で取り組めることであり達成感や満足感が得られる内容です。現在の子供にとって能力的に丁度よい内容であると言えます。

好きなことであるからこそ、子供に、知りたい、できるようになりたい、上手になりたいという意欲が生まれます。この本気度が学習の成立には重要になります。



### 観点② 【経験・知識】のあることですか？

できることからスタートする

ある特定の事柄を学習するには、学習者がそのことについて一定の発達を遂げている必要があります。学習の成立には、子供に学びの準備ができているかを見極めることが重要です。

子供が学校における生活の中で現在できていること、自らやろうとしていることに着目してみましょう。生活の中で取り組んでいることは、子供側に対応する能力が整っている状態と考えることができます（逆の見方をすれば、子供が現在できていないことや進んでやろうとしないことは、学ぶ準備がまだ整っていないとも考えることができます）。

準備の整った部分にこそ無理のない学習が成立します。現在できていること、既に経験していること、わかっていることの“質を高める”という発想が、子供に合った指導内容につながると考えます。



### 観点③ 【日常活用度】のあることですか？

子供の実生活に即したもの

せっかく学習しても、使わない力は忘れてしまいます。学習したことが日常の生活で役立ち、子供自身が便利さや有効さを感じられてこそ本当の使える力（自立と社会参加を支える力）になります。そのためには、指導内容が子供の実生活に即したものであることが大切です。いつか役立つであろうではなく、子供の日々の生活と結びつく、活用場面が想定できる内容であるかを検討する必要があります。

